

4月18日に、本校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、今年度は国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

国語のA問題（主として知識）、B問題（主として活用）で全国平均を若干下回り、数学のA問題（主として知識）、B問題（主として活用）で全国平均を下回りました。国語、数学ともに選択形式の問題は正答率が高く、記述形式の問題でも「自分の考え」や「説明」を書くものは無解答率が高くなる傾向にありました。

国語科より

全国平均をやや下回っている項目が多くありました。A問題、B問題とも「書く」観点において京都市・全国平均を上回りました。この領域に関しては、これまでの学習の成果が見られました。

（全国平均を上回った問題）

- 「書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す」問題
- 「必要な情報を集めるための見通しをもつ」問題

「読む」観点の問題は、大きく課題が残る結果となりました。

（全国平均を下回った問題）

- 「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み内容を理解する」問題

「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- 「表現の仕方についてとらえ、自分の考えを書く」問題

3つが統合された問題

「場面展開や登場人物の描写」はどんな文章でも読解する時の基礎となる問題です。授業でも再度意識しながら読み取る練習が必要となります。

また、3つの観点が統合された「表現の仕方についてとらえ、自分の考えを書く」問題は、色々な情報を活用し「実生活を応用して答えること」が必要な問いでした。この問題だけでなく、日常生活で活かされるような出題も多いので、日頃からノートに日常に活かせる知識や方法を独自で書きとめ、家庭学習でも取り組むことが必要です。

国語の授業だけでなく、あらゆる場面で「学んだ力を活用していくこと」を大切してください。

数学科より

A問題、B問題とも、すべての観点で全国平均を下回っていました。A問題、B問題とも「数学的な技能」を問う問題で、全国平均と同じ水準となる結果もありました。

（全国平均と同じぐらいの問題）

- 「分数の乗法の計算」問題
- 「数量関係を文字式で示す」問題
- 「証明—与えられた命題の仮定を読み取る」問題
- 「簡単な場合の確立を求める」問題

（全国平均を下回った問題）

- 「一次一元方程式をつくる」問題
- 「平行移動した図形作図」問題
- 「二元一次方程式」が表すグラフを選ぶ問題
- 「問題場面における考察の対象を捉える」問題
- 「関数の意味を問う」問題
- 「筋道を立てて証明する」問題

など

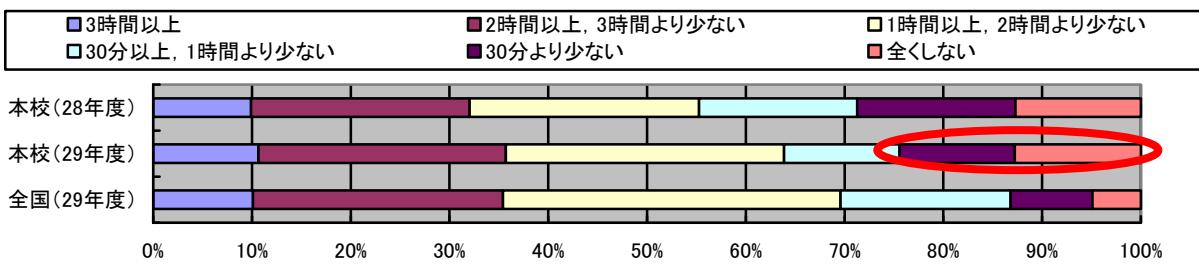
問題によって差はあるものの、全体的に「数と式」、「関数」で正答率が低い傾向にあります。

B問題では、特に記述式問題や言葉で答える問題で、「無解答」が多くみられました。ここから、問題の意味を読み取る力の不足が課題となることが分かります。基本問題から知識を活用しなければならない問題まで様々な問題に取り組むことが大切です。

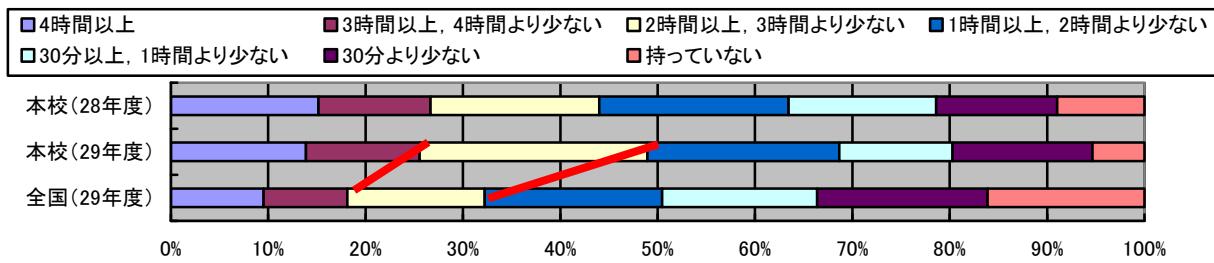
- ・問題をたくさん解いておこう
- ・家庭学習でこまめに復習しよう
- ・1年からの総復習をすぐにでも始めよう

生徒質問紙調査から

Q. 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



Q. 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）



授業以外で「1日2時間以上勉強する」生徒の割合は全国平均並みでした。しかし、その一方「30分より少ない」生徒の割合は依然、全国平均を2倍近く上回っています。また、携帯電話やスマートフォンを「3時間以上使用する」生徒の割合は全国平均並みですが、「2時間以上使用する」生徒の割合は昨年度より大幅に増加し、全国平均の2倍となっており、学習時間にも大きく影響していると考えられます。

全体を通して本校の成果と課題

本校では校区の2小学校と学力情報を共有し、学習指導方法や個に合った指導について検討するなど、小中一貫教育に取り組んでいます。

昨年度春より2小学校と共に導入している「家庭学習計画表」の成果もあり、計画的に自主的に学習に取り組む意識は、少しずつですが改善されているように思います。

また、生徒は教科授業だけでなく、総合学習でも課題解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に意欲的に取り組み、自らの進路実現に向けて以前より落ち着いた雰囲気で学習できるようになりました。

しかしながら、今回の調査でも分かるように、家庭学習時間が「1時間より少ない」生徒が3割を超えており、学習習慣が身についていないことは大きな課題として残ります。自律的な学習につなげるために、各教科では授業内容の復習を中心に、Web教材を用いたプリントを作成するなどして学習内容を工夫し、家庭学習に取り組めるようにしています。

本校では、秋季からの土曜学習のほか、定期考査前などの放課後に学習会を開催しています。また、毎週木曜日には勧修中学校区こどもの学びサポートプロジェクトが主催する放課後学習会が本校で行われています。学習には毎日の積み重ねが大切ですので、学習会にも積極的に参加してください。

保護者の皆様へ



全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、学習意欲の向上と生活習慣の改善がみられ、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりやご指導・ご支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。